日本海事史学会 第417回 例会（Web例会#36）

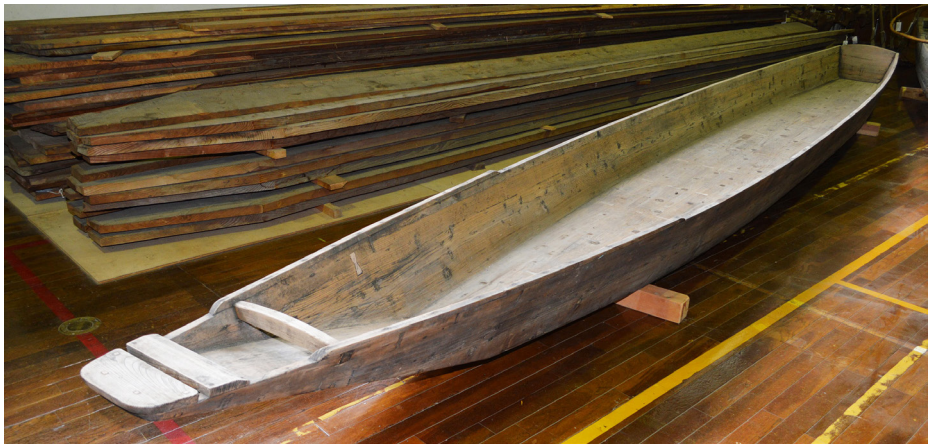
富山県の川舟について

―現存資料からみた構造と分類―

参加費無料

■講師：廣瀬（ひろせ） 直樹（なおき）

2023年12月23日（土）14:00～16:00　　Zoomにて開催（ルームオープン 13:30）



神通川のササブネ

氷見市十二町潟のタズル

神通川旧船橋

舟大工用具（神通川のササブネ）

かつて日本海沿岸地域に色濃く分布していた造船技術がオモキ造りである。オモキ造りとは、船底板の左右両端に刳材オモキを組み込んだ構造をいい、ウルシによる接着や木製接合具であるチキリとタタラの使用など、特徴的な接合技術が付随する。本州日本海側のほぼ中央に位置する富山県においては、海船だけでなく川舟にもオモキ造りと棚板造りの船が併存する状況が見て取れる。だが、多様だった川舟の多くは失われ、現在その構造が分かる資料は極めて少ない。

今回の報告では、富山県内に現存する川舟について、その概要を紹介するとともに、船体構造によって分類し、検討を加える。

■廣瀬 直樹（ひろせ なおき）日本海事史学会会員

1977年富山県生まれ。専門は考古学・民具学。平成13年度より氷見市立博物館の学芸員を務める。平成15年、氷見市内の船大工とともに和船建造技術を後世に伝える会を結成し、調査・研究を行う。平成23年、「富山の和船～富山湾沿岸地域とその周辺の海船・川舟～」で第25回日本民具学会研究奨励賞を受賞。現在、氷見市立博物館主査（学芸員）。

●関心をお持ちの方ならどなたでもご参加いただけます。
メールでお申し込みください。
※希望者多数の場合は抽選とさせていただきます。
お申込みいただいた方には12月20日（水）までにご連絡いたします。

●会員にはメールでご案内をお送りしています。
メールが届いていない方は、右の申込先までお問合せください。

■申込〆切：2023年12月19日（火）正午（12:00）

■申込先：kaijishi.web@gmail.com（担当：大野）

メールの件名を「日本海事史学会Web例会申し込み（非会員）」として、本文にはお名前をお書きください。

［今後の例会 開催予定日：2024年1月27日（土）・2月24日（土）・3月23日（土）］

日本海事史学会は、海事一般に関する歴史・法律・民俗・水産・考古・船舶・航海・海運など、海事史だけにとどまらずひろく海の人文学、社会科学等あらゆる分野に関心を持つ学界や在野の研究者の方々の交流をはかる総合研究の“場”です。

【主な活動】専門学術誌『海事史研究』の発行（年1回）／総会（年1回）・例会（8月と総会開催月を除く年10回）など

日本海事史学会 The Japan Society for Nautical Research

ご入会随時受付中　https://kaijishi.jp/

〒104-0043　東京都中央区湊2丁目12番6号 湊SYビル3F 日本海事広報協会気付

メール：kaijishi.info@gmail.com